

令和7年度関東局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定地区

ビジネス・イノベーション部門					
No.	都道府県	市町村	地 区 名		取 組 の 概 要
1	茨城県	行方市	なめがたブランド戦略会議(行方市)	 (200gでの販売パッケージ)	熟練漁業者の「目利き」をAIが学習し、鮮度が保証された霞ヶ浦シラウオのみを選別する「AIによる品質判定」という新たな価値を付与し「霞ヶ浦AIシラウオ」としてブランド化。 漁業者と高付加価値を実現できる漁獲量・漁法・漁業時間などを共同で検討し、漁獲量のコントロールにより霞ヶ浦の資源保全に繋がり、持続可能な漁業の実現にも貢献。
2	群馬県	中之条町	中之条花楽の里	 (農家から生花を買取り、ナチュラルドライ法で加工)	農家の選花に漏れた花を買取り、ナチュラルドライ加工で年間約1万束を商品化し、廃棄削減と農家収入向上に貢献。品種の保存・再提供を行うシードバンク機能も担う。 Instagramやポスター等を自作し、開設2年でSNSフォロワーを0→1,200に増加、地域の特産物を地域資源へと再定義した本事業を、アップサイクルと循環型モデルとして確立し、地域の魅力を全国に発信。
3	埼玉県	飯能市	くるくるはんのう	 (飯能の若手農家とクリエイターの交流会)	飯能市内の農産物や生産者の魅力を発信し、クリエイターとのご縁を結ぶ「生産者×クリエイターマッチングツアー」の開催により、生産者の販路が拡大。Instagram発信により、現在フォロワー数が1,300名以上。 他業種との交流が少なかったことが課題であった生産者には、販路開拓や情報交換による新たなビジネスチャンスを生んでいる。

コミュニティ・地産地消部門

No.	都道府県	市町村	地 区 名		取 組 の 概 要
1	栃木県	矢板市	栃木県立矢板高等学校 農業技術部畜産班	 (家畜動物の避難訓練)	学校内や地域内の未利用資源(規格外リンゴ・米ぬか・酒粕など)を原材料にオリジナルの自家製飼料を開発、廃用となる放牧繁殖牛を自家製飼料で再肥育し、商品化・販売を行った。肉質はA3ランクとブランド牛並みに仕上がり3頭で1,068,563 円の売上を達成。有事を想定し地域資源である家畜動物の命と農村社会を守ることを目的にこれまで例のない避難放牧訓練を実施。活動を通じて地域のステークホルダーとの繋がりができた。
2	栃木県	那須烏山市	荒川南部土地改良区	 (ヒマワリと電車を撮影する来場者)	谷津田地形である猿久保田んぼ公園及びその周辺の保全活動を行いホタルの観察会・生き物調査を開催し、畦畔への彼岸花及び耕作放棄地を活用したヒマワリの植栽を行った。JR東日本とのタイアップが報道され活動が広く認知された。
3	千葉県	君津市	君津市教育センター(君津市教育委員会)	 (海苔の手すき体験)	市内小中学校6校(2024年度からは7校)で学習プログラムとして、猟師工房による鳥獣被害対策とジビエ活用について学ぶ「命の授業」を実施。マテバシイ間伐材から海苔養殖の木ひびを製作して海苔の手すき体験を実施。海を起点に発展し未来へと進む地域に対して誇りを持てる教育活動を推進。
4	長野県	松川町	南信州松川りんごワイン・シードル振興会	 (商店街での町内飲食店向け試飲会)	町内の果樹農家と3つの醸造所が連携し、地域で収穫されたりんごやぶどうを活用したシードル・ワインのオリジナル商品を開発・販売する6次産業化を実現。松川町との官民連携により成人式で地元特産品としての贈呈や、町内3か所の醸造所を巡り試飲を楽しみ、最後にコース料理とペアリングを提供する地産地消型の「醸造所巡りツアー」を造成。シードル文化普及のため地域イベントへの出店や試飲会を実施している。

個人部門

No.	都道府県	市町村	地 区 名		取 組 の 概 要
1	千葉県	柏市	飯島暁史	 (ピーナッツレザーチャシ)	特定外来生物「キョン」を活用して キョン革の製造・販売や落花生の薄皮を再利用した「ピーナッツレザー」を考案。落花生の薄皮を使用することで、廃棄時に発生するCO2の削減、また従来のPVCに比べ石油使用量の低減。年間13000tを超える落花生を生産する千葉県の名産品を食から物に転換させ、新たな名産品を創出することで地域資源の活用を行っている。千葉ジェッツのオリジナルグッズ素材としても採用されている。
2	千葉県	いすみ市	大谷展弘	 (地域スギを圧縮して作った 小学校児童机天板)	地域課題の予防伐採された杉を地域内外企業・市と連携して学童机天板を製造し小学校に導入し、環境への配慮及び地域活性化を図る。いすみ市岬公民館、いすみ市内企業では地域材活用として杉テーブルや図書棚が導入。杉は家具にするには柔らかく不向きな材だが、圧縮加工技術を持つ飛騨産業株式会社(岐阜県高山市)と連携することで、商品化に成功。
3	静岡県	静岡市	齋藤雅子	 (お茶ツアー: 茶摘み、外国人参加者)	2009 年5 月に「隠れ茶を守る会」を一人で立上げ、お茶体験、呼吸法、瞑想、散策、景観観賞を行うお茶ツアーを実施し、茶畑の魅力を国内外に広める。放棄茶園再生ボランティアの輪を広げ、梅ヶ島の放棄茶園の再生面積を拡大するとともに、関係人口の増加により茶農家の後継者獲得に繋げている。 「食べる乳酸発酵茶」を東京農業大学と共同開発し、2024年末、乳酸発酵茶「食べるお茶・発酵ほろに」として販売を開始した。